

## 病床機能再編計画

医療機関名 熊谷眼科医院

## 病床数(床)

平成30年度病床機能報告 現在 (H30.7.1)

一般病床(A)	18	高度急性期(a)	
療養病床(B)		急性期(b)	18
		回復期(c)	
		慢性期(d)	
		休棟中	
		うち再開予定有(e)	
		〃 無(f)	
計(A+B)	18	計(a+b+c+d+e+f)	18

将来 (R6.3.31) ※R8.3.31まで

一般病床(G)	10	高度急性期(g)	
療養病床(H)		急性期(h)	10
		回復期(i)	
		慢性期(j)	
		休棟予定(k)	
		(廃止予定)	
		(介護保険施設等へ)	
計(G+H)	10	計(g+h+i+j+k)	10

## (上記内容 (減床) の考え方について)

今後形成外科を併診するにあたり、現在の病室を形成外科診療用に変更するため病室二室8床を減床します。

H30病床機能報告の数値

平均在院日数 一般： 1.6日

病床利用率 一般： % 療養： %

病床稼働率 一般： 6.1% 療養： %

診療科 合計 2 科 眼科、形成外科

主な紹介元医療機関 中野眼科、鹿内眼科

主な紹介先医療機関 八戸市立市民病院、青森労災病院

**当院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）**

**【主な認定・指定の状況】**

**【主な患者像、地域の役割等】**

受診者は、八戸市内のみならず近隣町村さらには岩手県北・沿岸住民であり、比較的広域の診療圏から受診されています。診療は眼科一般診療を行い、白内障による視力不良患者さんへ手術療法を行うことにより視機能を改善し、通常の日常生活および社会復帰につなげています。今後は形成外科も併診するのでその方面の患者さんにも治療を届けることができます。

**当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）**

今後も眼科外来診療が中心となりますが、その中で白内障による視力障害者への手術療法を行い、視力回復とともに社会復帰の支援を行います。白内障手術を継続するためには入院施設（急性期病床）が必要であり、また現在でも白内障手術待ちが半年以上となっておりますのでしばらくは病床数は現状維持（10床）と考えています。また今後は形成外科診療も併診するために施設の整備とともに新たに機械を導入しますが、現在の限られた施設内では対応困難となることも考えられ、将来的には状況を見て施設の建て替えも検討が必要と思われれます。

**在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）**

**<退院支援>**

行っていません。

**<訪問診療>**

行っていません。今後も難しいです。

**<後方支援>**

行っていません。

**<看取り>**

行っていません。

## 病床機能再編計画

医療機関名 エフ.クリニック

### 病床数(床)

平成30年度病床機能報告 現在 (H30.7.1)

一般病床(A)	17	高度急性期(a)	
療養病床(B)		急性期(b)	17
		回復期(c)	
		慢性期(d)	
		休棟中	
		うち再開予定有(e)	
		〃 無(f)	
計(A+B)	17	計(a+b+c+d+e+f)	17

将来 (R6.3.31) ※R8.3.31まで

一般病床(G)	14	高度急性期(g)	
療養病床(H)		急性期(h)	14
		回復期(i)	
		慢性期(j)	
		休棟予定(k)	
		(廃止予定)	
		(介護保険施設等へ)	
計(G+H)	14	計(g+h+i+j+k)	14

### (上記内容 (減床) の考え方について)

青森市の出生数の減少に伴い、50～60%で推移していた病床稼働率が、令和4年には30%未満に低下している。患者から入院病室を広くしてほしいとの要望もあり、個室病室の一部を改修して減床した。

H30病床機能報告の数値

平均在院日数 一般： 4.6日

病床利用率 一般： % 療養： %  
 病床稼働率 一般： 60.2% 療養： %

診療科 合計 1科 産婦人科

主な紹介元医療機関

青森県立中央病院、弘前大学医学部附属病院、むつ総合病院、八戸クリニック

主な紹介先医療機関

青森県立中央病院、青森市民病院、八戸市民病院、むつ総合病院

当院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

【主な認定・指定の状況】

以下の指定を受けている。体外受精・胚移植に関する登録施設、顕微授精に関する登録施設、ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録施設、医学的適応による未受精卵子、胚の凍結・保存に関する登録施設、不妊症および不育症を対象としたPGT-A・PGT-SR実施施設（以上、日本産科婦人科学会）、日本がん・生殖医療登録システム登録施設（日本がん・生殖医療学会）。

【主な患者像、地域の役割等】

地域の産婦人科有床診療所として、低リスク妊娠の周産期管理、一般婦人科診療、良性婦人科疾患の内視鏡下手術（腹腔鏡、子宮鏡、卵管鏡など）、人工妊娠中絶などに対応している。また、生殖補助医療専門医がいる不妊治療施設として、県内では当院でしか実施できない着床前遺伝子検査など高度な生殖補助医療にも対応している。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

現在の分娩件数と手術件数を鑑み、病床数は14床を維持する予定である。施設への転換や院舎立て替えの計画はない。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

急性期病床のため実施していない。

<訪問診療>

実施しておらず、対応する計画もない。

<後方支援>

実施しておらず、対応する計画もない。

<看取り>

実施しておらず、対応する計画もない。